

| 受験方式

一般選抜	教科	満点	英	国	日	世	政	数IA	数IIB	他	備考
法	3	150	60	50	(40)	(40)	(40)	(40)		-	[数]共テを受験

| 志願者推移 (数値は集計日時点による)

※志願者割合は各年度の志願者÷定員の値を比較 (△:増加% ▼:減少%)

一般選抜	20'定員	20'志願者	21'定員	21'志願者	志願者割合	備考
法	350	4,712	350	4,797	△2%	

| 入試問題分析

| 英語

入試問題分析	基本的な問題形式は変わらない。ただし、2020年度の大問1と大問2の形式については、2021年度で順序が入れ替わっている。また、2020年度まで出題されていた小説文は、2021年度では出題されていない。特に長文は単語数が非常に多く、問われるポイントもかなり細かいので、注意力が必要。自由英作文も特徴的で、与えられた「絵」の意図を英語で説明する問題となっている。
--------	--

| 現代文

入試問題分析	大問二題(全8問・全5問・記述+マーク)、大問(三)は随筆文、大問(四)は論説文で抽象度は高く論旨が掴みにくい。 出題形式は①：漢字問題(記述)／②：傍線読解問題(選択)／③：空欄補充問題(選択)／④：自由記述問題(120～180字)。 ②は選択肢の正誤判定が厳しい。各選択肢の細かな表現や論理展開と、文章との照合が求められる。④は「傍線の意味説明」と「主題となる語句の説明」を組み合わせで解答する。課題文と設問のボリュームに対し制限時間が短く、タイムマネジメントがしっかりできていないと時間内に解ききれない。長文記述問題への対応力と、課題文全体から論旨を掴み、それを自らまとめ直す構成力が必要。国公立大学対応の問題集に加え、要約練習なども効果的。
--------	--

| 古典

入試問題分析	古文は、単語・文法問題は基礎～標準レベルの問題が大半。解釈問題も単語+文法で選択肢の絞り込みが可能。傍線部内に「指示語」があれば、指示語を特定することで正解に近づける。本学部では、主語や敬意の対象を問う設問が頻繁に出題されている。敬語動詞を見たら、誰の動作・誰への敬意か、は常に意識しておくといよい。漢文は、返り点・書き下し文・解釈問題ともに、基本語句と句形を理解していれば解ける問題が大半である。
--------	---

| 日本史

入試問題分析	例年と同じく近現代史が半分を占める出題。正誤問題と記述で構成された問題形式にも変化はない。文章による論述問題はない。近現代史の範囲ではかなり最近のことまで出題されるので戦後史はしっかりと整理しておきたい。この時代で最も得点に差がつきやすい。
--------	--

| 世界史

入試問題分析	例年、大問5題、マーク式の設問が34問、250～300字論述が1問。合計35問(34問は4択正誤判定問題と4択空欄補充問題)。2019年度以降は易化。細かい正誤判定問題が中心だったが、近年は因果関係や年号・年代の誤りを判断させるものではなく、単なる用語のすり替えが中心になる傾向が続き、用語のレベルも易しくなりつつある。例年、出題範囲は満遍ないが、2020年度は近代史(19世紀)は全く出題されず、戦後史も1問のみ。2021年度も戦後史が1問のみだった。 論述のウェイトが非常に高い。2020年度に難化、2021年度は標準的な難易度に回帰。論述は2か月程度の訓練が必要。文化史は2019年度は35問中6問、2020年度は35問中3問、2021年度は35問中9問。年度により、ばらつきがあるが、意外に文化史の割合が高い。年号が絡む問題は2019年度が6問、2020年度は7問(実質、14個の年号を覚えておかなければ正解を得られなかった)、2021年度は8問。
--------	---

| 政治経済

入試問題分析	問題数は昨年と同様で、政治分野の多くは日本国憲法からの出題であった。論述問題は150字と100字以内の2題から250字以内の1題に減った。昨年は見られなかった時事的な知識を問う問題が一部で見られた。一部では通常の学習で触れることのない難問が出題されることはあるものの、論述問題も含めて基本事項についての正確な知識が求められている。また、日本国憲法からの出題が多くみられ、条文や判例、関連する法律等の詳細な知識も求められている。
--------	---